

安全データシート

1. 製品名及び会社情報

製品名 : エスロン マスタイト
会社名 : 積水化学工業株式会社
住所 : 〒105-8566 東京都港区虎ノ門 2-10-4 (オークラプレステージタワー)
担当部門 : 環境ライフラインカンパニー 給排水インフラ事業部
電話番号 : 03-6748-6492
FAX 番号 : 03-6748-6564
緊急連絡先 : 上記担当部門
推奨用途 : 『エスロン カイシヨマス』の接合用シーリング剤 (所定の用途以外には使用しないこと)
整理番号 : S-605

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理化学危険性

爆発物 区分に該当しない
可燃性ガス 区分に該当しない
エアゾール 区分に該当しない
酸化性ガス 区分に該当しない
高圧ガス 区分に該当しない
引火性液体 区分に該当しない
可燃性固体 区分1
自己反応性化学品 区分に該当しない
自然発火性液体 区分に該当しない
自然発火性固体 区分に該当しない
自己発熱性化学品 分類できない
水反応可燃性化学品 区分に該当しない
酸化性液体 区分に該当しない
酸化性固体 区分に該当しない
有機過酸化物 区分に該当しない
金属腐食性物質 区分に該当しない
鈍性化爆発物 分類できない
急性毒性(経口) 区分に該当しない
急性毒性(経皮) 区分に該当しない
急性毒性(吸入:ガス) 区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気) 区分4
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) 分類できない
皮膚腐食性・刺激性 区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2
呼吸器感作性 分類できない
皮膚感作性 区分に該当しない
生殖細胞変異原性 区分に該当しない
発がん性 区分2
生殖毒性 区分1
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分2(中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓)

健康に対する有害性

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 区分3(麻酔作用、気道刺激性)
誤えん有害性 区分2(神経系、中枢神経系、呼吸器、腎臓、聴覚)
水生環境有害性 短期(急性) 区分に該当しない
水生環境有害性 短期(慢性) 区分2
オゾン層への有害性 区分3
分類できない

環境に対する有害性

【GHSラベル要素】

絵表示又はシンボル



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

可燃性固体
 吸入すると有害
 発がんのおそれの疑い
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
 授乳中の子に害を及ぼすおそれ
 中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓の障害のおそれ
 眠気又はめまいのおそれ
 呼吸器への刺激のおそれ
 長期にわたる、又は反復ばく露による神経系、中枢神経系、呼吸器、腎臓、聴覚の障害のおそれ

水生生物に毒性
 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き**安全対策**

使用前に取扱説明書を入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
 粉じんを吸入しないこと。
 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
 ガスの吸入を避けること。
 ミスト、蒸気、スプレートの吸入を避けること。
 粉じん、ヒュームの吸入を避けること。
 妊娠中、授乳中は接触を避けること。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 環境への放出を避けること。
 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 保護手袋を着用すること。

応急措置

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
 火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。
 漏出物は回収すること。

保管 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

廃棄 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区分:

混合物

化学名又は一般名:

ブチルゴム混和物 (1成分形溶剤揮散型ブチルゴム系シーリング材)

[成分]	[含有量]	[CAS番号]	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	備考
キシレン	2.4%	1330-20-7	(3)-3	
エチルベンゼン	2.9%	100-41-4	(3)-28	
トルエン	5.2%	108-88-3	(3)-2	
ミネラルスピリット	15%	8052-41-3	(9)-1702	
酸化チタン	1%未満	13463-67-7	(1)-558	

4. 応急措置**吸入した場合**

: 直ちに新鮮な空気のところに移動し安静にする。
 頭痛等の異常があれば、直ちに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

: 付着物を拭き取り、水と石鹸でよく洗浄する。かゆみ、炎症などの症状が出た場合は、速やかに医師の診断を受ける。

眼に入った場合

: 直ちに清浄な水で15分以上、まぶたの裏側を含めて洗眼した後、医師の診断を受ける。
 コンタクトレンズ使用者は、できる限りコンタクトレンズを外して洗眼する。

飲み込んだ場合

: 直ちに水で口の中を洗浄し、医師の診断を受ける。
 無理に吐き出させないようにする。

5. 火災時の措置**適切な消火剤**

: 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、乾燥砂

使ってはならない消火剤

: 水を消火に用いてはならない。

火災時の特有の危険有害性

: 燃焼により有害なガス（一酸化炭素、二酸化炭素、窒素化合物）が生成するので、煙を吸入しないように注意する。

特有の消火方法

: 火元への燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。
 延焼の恐れのないように、周囲の設備などに散水して周辺を冷却する。

消火を行う者の保護 : 消火活動は可能な限り風上から行い、有毒ガスの吸入を避ける。
消火活動の際は、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 大量に漏出した場合、漏出した場所の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。漏出防止、除外などの作業は、必ず保護具を着用する。
(8. 暴露防止及び保護措置の項目参照)

環境に対する注意事項 : 付近の着火源を取り除き、消火機材を準備し、漏出した製品の流出を土砂、土のうなどで防止する。漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。

除去方法 : 少量の場合は、紙や布で拭き取り、大量の場合は、火花の出ないシャベルなどで密閉できる容器にすくい取り、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

【取扱い】

技術的対策 : (8. 暴露防止及び保護措置の項目参照)

局所排気・全体換気 : 取扱い場所の換気を十分に行い、呼吸器、目、手、皮膚及び身体の適切な各保護具を着用し、直接の接触を防ぐ。

注意事項 : 施工・養生中に溶剤等の蒸気が発生するため、吸入しないように注意し、容器開封後は、速やかに全量を使い切る。

安全取り扱い注意事項 : 取扱い後は、手、顔などをよく洗い、うがいをする。

【保管】

適切な保管条件 : 保管時の温度が5℃以下または、40℃以上としないようにする。
直射日光を避け、容器を密閉して屋内冷暗所に保管する。(火気厳禁)

安全な容器包装材料 : 製品の容器包装材料にて保管する。

8. 暴露防止措置及び保護措置

設備対策 : 状況に応じ、局所排気装置を設置する。
状況に応じ、目の洗浄及び、身体洗浄のための設備を設置する。

管理濃度 :

キシレン(エチルベンゼン含有)	:	100 ppm
エチルベンゼン	:	20 ppm
トルエン	:	20 ppm
ミネラルスピリット	:	未設定
酸化チタン	:	未設定

		日本産業衛生学会	ACGIH
許容濃度 :	キシレン(エチルベンゼン含有)	100 ppm	100 ppm (TWA)
	エチルベンゼン	50 ppm	20 ppm (TWA)
	トルエン	50 ppm	20 ppm (TWA)
	ミネラルスピリット	未設定	100 ppm (TWA)
	酸化チタン	1.0 mg/m ³	10 mg/m ³

【保護具】

呼吸器の保護具 : 有機ガス用防毒マスク

手の保護具 : 不浸透性保護手袋

目の保護具 : 有機溶剤対応型ゴーグル

皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣

9. 物理的及び化学的性質

物理状態: ペースト状

色: グレー

臭い: 石油臭

融点/凝固点: データ無し

沸点又は初留点及び沸騰範囲: データ無し

可燃性: あり

爆発下限及び爆発上限/可燃限界: データ無し

引火点: 40℃未満(密閉式)

自然発火点: データ無し

分解温度: データ無し

pH: 該当せず

動粘性率: 約 20万 (mm²/s)/20℃

溶解度: 水に不溶

n-オクタノール/水分配系数(log値): データ無し

蒸気圧: データ無し

密度及び/又は相対密度: 約 1.2(20℃)

相対ガス密度: 該当せず

粒子特性: データ無し
不揮発分: 約 70%

10. 安定性及び反応性

反応性: 引火性である。
安定性: 通常の 温度・圧力 の条件下では、安定である。
危険有害反応可能性: 引火性である。
避けるべき条件: 火気、熱源を避ける
混触危険物質: 酸、強酸、塩基、強塩基
危険有害な分解生物: 規定通りに使用すれば、分解物は発生しない。しかし、燃焼などにより、一酸化炭素等の有毒ガスを発生するおそれがある。

11. 有害性情報

【混合物による判定】

急性毒性(経口): 計算による「推定値」が、4,048mg/kg であることから、区分に該当しないとした。
急性毒性(経皮): 計算による「推定値」が、6,385mg/kg であることから、区分に該当しないとした。
急性毒性(吸入; ガス): 構成成分は、すべて『GHS定義』による「液体」、もしくは「固体」であることから、分類の対象にならないため分類対象外とした。
急性毒性(吸入; 蒸気): 計算による「推定値」が15mg/L であることから、区分4とした。
急性毒性(吸入; 粉塵・ミスト): 現在のところ「データなし」であることから、分類できないとした。
皮膚腐食性/刺激性: 混合物として区分に該当しない。
眼に対する重篤な損傷/刺激性: 混合物として区分2に該当する。
呼吸器感作性又は皮膚感作性: 現在のところ「データなし」であることから、分類できないとした。
生殖細胞変異原性(変異原性): 混合物として区分に該当しない。
発がん性: 区分2に該当する成分を1%以上含んでいるため、区分2 とした。
生殖毒性: 区分1に該当する物質を0.3%以上含んでいるため、区分1とした。
標的臓器/全身毒性(単回暴露): 区分1に該当する物質を1%以上、10%未満含有し、区分3に該当する成分を20%以上含有していることから、区分2(中枢神経系、呼吸器、腎臓、聴覚)、区分3(麻酔作用、気道刺激性)とした。
標的臓器/全身毒性(反復暴露): 区分1に該当する物質を1%以上、10%未満含有し、区分2(神経系、中枢神経系、呼吸器、腎臓)とした。
誤えん有害性: 40℃での動粘性率が、20.5mm²/s以上であるため区分に該当しないとした。

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性): つなぎの原則により区分2とした。
水生環境有害性(慢性): つなぎの原則により区分3とした。
オゾン層への有害性: 当該品の成分はモントリオール議定書の附属書に列記されていない為、分類出来ない。

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報: 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
本品は、70℃以下の引火性成分を含む混合物(特別管理型産廃)に分類される。
都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
空容器類を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に、産業廃棄物(安定型・管理型産廃)として処理または、回収にまわす。

14. 輸送上の注意

国連番号: 1325
品名(国連輸送名): その他の可燃性物質(有機物)(他の危険性を有しないもの)(他に品名が明示されているものを除く。)
国連分類: クラス4.1(可燃性物質)
容器等級: II
海洋汚染物質: 有害液体物質
(施行令別表第1Y類 キシレン、エチルベンゼン、トルエン)
但し、容器1個当たりの容量が5L以下は非該当
国内規制
指針番号: 133
陸上規制情報: 消防法の規定に従う。
海上規制情報: 船舶安全法、港則法、海洋汚染防止法の規定に従う。
航空規制情報: 航空法の規定に従う。
安全対策: 運送前に容器の破損、腐食、漏れなどが、ないことを確認する。
転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
消防法による「危険物」では、引火性固体なので「火気厳禁」。

15. 適用法令**労働安全衛生法:**

名称等を通知すべき有害物(法第57条の2)
キシレン、エチルベンゼン、トルエン、ミネラルスピリット、酸化チタン
名称等を表示すべき有害物(施行令第18条)
キシレン、エチルベンゼン、トルエン、ミネラルスピリット
第2種有機溶剤等(有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)
キシレン、トルエン
がん原性物質(労働安全衛生規則第34条の2の4)
該当せず
皮膚等障害化学物質(法第22条関連)
キシレン、トルエン

消防法:**化学物質管理促進法(PRTR法):**

第2類 引火性固体 (危険等級Ⅲ)
第1種指定化学物質 トルエン 管理番号第300番
第1種指定化学物質 キシレン 管理番号第80番
第1種指定化学物質 エチルベンゼン 管理番号第53番

毒物及び劇物取締法:**海洋汚染防止法:**

該当せず
有害液体物質
(施行令別表第1 Y類 キシレン、エチルベンゼン、トルエン)
但し、容器1個当たりの容量が5L以下は非該当

16. その他の情報**【引用文献】**

- 1) 化学物質等安全データシート(MSDS)ー第1部:内容及び項目の順序
- 2) 製品安全データシートの作成指針(改訂版)、社団法人日本化学工業協会
- 3) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- 4) 化学物質の危険・有害性便覧 中央労働災害防止協会
- 5) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z 7253: 2019

※この情報は新しい知見に基づき、改訂されることがあります。

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成いたしておりますが、記載のデータや評価に関しては、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。また、記載事項は通常の取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする等の場合には新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。